

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年2月13日
【四半期会計期間】	第51期第3四半期（自平成24年10月1日至平成24年12月31日）
【会社名】	株式会社ダスキン
【英訳名】	DUSKIN CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 山村輝治
【本店の所在の場所】	大阪府吹田市豊津町1番33号
【電話番号】	06(6387)3411(大代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役 鶴見明久
【最寄りの連絡場所】	大阪府吹田市豊津町1番33号
【電話番号】	06(6387)3411(大代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役 鶴見明久
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社大阪証券取引所 （大阪市中央区北浜一丁目8番16号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第50期 第3四半期連結 累計期間	第51期 第3四半期連結 累計期間	第50期
会計期間	自平成23年4月1日 至平成23年12月31日	自平成24年4月1日 至平成24年12月31日	自平成23年4月1日 至平成24年3月31日
売上高(百万円)	130,634	126,866	171,118
経常利益(百万円)	9,274	9,309	11,609
四半期(当期)純利益(百万円)	3,069	5,419	4,583
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	2,955	6,165	5,320
純資産額(百万円)	147,238	151,442	149,604
総資産額(百万円)	191,174	197,132	197,316
1株当たり四半期(当期)純利益金 額(円)	47.56	84.38	71.07
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)			
自己資本比率(%)	76.6	76.4	75.4

回次	第50期 第3四半期連結 会計期間	第51期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成23年10月1日 至平成23年12月31日	自平成24年10月1日 至平成24年12月31日
1株当たり四半期純利益金額(円)	3.16	38.22

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。なお、蜂屋乳業株式会社は、第1四半期連結会計期間において新たに関係会社となりました。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1)業績の状況

当第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日～平成24年12月31日、以下「当第3四半期」）の我が国経済は、東日本大震災の復興需要等を背景に、緩やかに持ち直す傾向にありました。しかしながら、期の後半は欧州債務危機再燃等による世界景気の減速や国内において電力料金の値上げ、消費税増税法案の成立等、先行きの不透明感が広がり、消費者の生活防衛意識や企業の経費削減意識は更に高まる状況が続きました。

このような環境の中、当社は「仕組みの改革」に主眼を置き、それをスピーディーに行うことを基本方針とする中期経営方針に沿った取り組みを進めておりますが、当第3四半期の業績につきましては、連結売上高は、1,268億66百万円（前年同期比2.9%減）、連結営業利益は、78億96百万円（前年同期比0.8%増）、連結経常利益は、93億9百万円（前年同期比0.4%増）、連結四半期純利益は54億19百万円（前年同期比76.5%増）となりました。

<セグメント毎の状況>

クリーンケアグループ

清掃関連用具のレンタルや清掃美化関連のサービスを手掛けるクリーン・ケア事業は、家庭市場においては、引続きフロアモップ「L a L a」と置き型式掃除機「ダストクリーナー」を使った“新おそうじスタイル”の更なる普及、浸透に注力しました。テレビCM他各種広告媒体を活用した広告販促に加え、ショッピングセンター等での体感デモンストレーションをはじめとする訴求活動を重点的に行なったことで、「L a L a」及び「ダストクリーナー」の売上は順調に増加しました。しかしながら、「L a L a」の販売初年度であった前期と比べ付属品等の売上が大幅に減少したことやハンディモップ売上が減少したこと等で、モップ商品全体では前年同期を下回る結果となりました。家庭市場の役務提供サービスは全てのサービス売上が前年同期を上回りましたが、家庭市場全体の売上高は前年同期を下回りました。（商品出荷ベース前年同期比2.5%減）

事業所市場においては、企業の経費節減意識は依然として強く、厳しい状況が続いており、全体の売上高は前年同期を下回りました。しかしながら、6月に発売した「スマートディスペンサーA U T O（薬用泡ハンドソープ、便座除菌泡クリーナー用の薬剤自動抽出器）」が好調に推移し、化粧室周り商品の売上が増加したこと、清掃用具レンタルに清掃サービスや害虫駆除、衛生管理サービス等を加えたオーダーメイドの総合提案を繰り返し行う地道な営業が奏功したこと等で、マットを中心とするダストコントロール商品の売上減少幅は前年同期に比べ縮小しました。事業所市場の役務提供サービスにおいては、エアコンクリーニング等の清掃サービスは減少したものの、害虫駆除サービス、庭木の剪定サービスの売上は順調に増加しました。（商品出荷ベース前年同期比0.7%減）

クリーンケアグループのその他の事業につきましては、介護用品のレンタルが引き続き好調なレントール事業は、イベントの受注件数も増加し前年同期の売上高を上回りました。ヘルス&ビューティ事業は、11月に発売した共和化粧品工業株式会社（連結子会社）との共同開発商品である「ボディミルク（身体用保湿クリーム）」が好調に推移したものの、売上高は前年同期並みに留まり、ユニフォームサービス事業、ホームインステッド事業は、前年同期を下回りました。

以上の結果、クリーンケアグループ全体の売上高は、839億54百万円（前年同期比3.4%減）、営業利益は、114億13百万円（前年同期比4.2%増）となりました。

なお、支店で営業活動に従事する個人事業主の独立性をより高めるために、契約形態を変更したことによる当第3四半期の減収影響が約19億円あります。従いまして、前年同期と同条件で比較した場合、売上高は実質的には約10億円（約1.2%）の減収となります。この契約形態の変更による営業利益への影響はありません。

フードグループ

ミスタードーナツ事業は、昨年年初に更新したブランドスローガン「こころをまあるく」の浸透を図り、ブランド力再強化の各種施策に取り組みました。商品面においては、長年支持いただき発売40周年を迎えた定番主力商品「フレンチクルーラー」や「エンゼルクリーム」等イーストシェルドーナツの生地材料・製法等を見直す等、徹底して“おいしさ”にこだわりました。更に、クリスマス商品として「スノーピーのモンブランハウス」を発売する等、季節催事に合わせた商品や、人気タレント山口智充さん監修の「二度うまカレーパン」、オリンピックイヤーにちなんだ英国発祥の「スコーン」の発売等、話題性豊かな商品展開を行いました。プロモーション面におきましても、JAL（日本航空株式会社）やUSJ（ユニバーサル・スタジオ・ジャパン）とのタイアップキャンペーン、かつて人気を博したスクラッチカードを使った「ラッキーカードキャンペーン」の復活、ミスドクラブにおけるグッズや商品と交換できる最低ポイントの引き下げ等で楽しさや話題性を提供して、お客様の来店頻度アップを目指しました。また、公式Facebookの開設、Twitterを媒介したキャンペーン等、ソーシャルメディアの活用にも新たに取り組みました。出店については、5月には「東京ソラマチ」にミスタードーナツオリジナルキャラクターであるボン・デ・ライオンをテーマにした通称「ボン・デ・ライオンパーク」、9月にはJR中央線西国分寺駅構内に新設された商業施設「nonowa西国分寺」内の中央線ホームに「JR西国分寺ショップ」をオープンしました。更に11月には、都心部への展開モデル店舗として「大手町フィナンシャルシティショップ」をオープンする等、新しい取り組みにチャレンジしました。これらの積極的な施策に加え、9月に実施したキャンペーン効果もあって上半期はお客様数については増加傾向であったものの、下半期に入り減少に転じ、単価も低下したことにより、売上高は前年同期を下回りました。

フードグループのその他の事業につきましては、カフェデュモンド事業、かつアンドかつ事業、スティック・スイーツ・ファクトリー事業、海鮮丼チェーンを運営するどん事業は、不採算店のクローズを進めたことにより店舗数が減少し、売上高は前年同期を下回りました。

以上に当第2四半期より連結子会社となった蜂屋乳業株式会社の売上高7億64百万円を含めたフードグループ全体の売上高は、352億82百万円（前年同期比2.4%減）、営業利益は、11億43百万円（前年同期比37.9%減）となりました。

その他

株式会社ダスキンヘルスケアで展開しております病院施設のマネジメントサービスは、新規契約件数は前年同期を上回りましたが、既存のお客様との契約が減額になったことを主因として、売上高は前年同期並みとなりました。ダスキン共益株式会社で展開しておりますリース事業は、ミスタードーナツ店舗へのシステム機器入れ替えに伴って売上高は前年同期を上回りました。

海外事業につきましては、ダストコントロール事業は、前期3月に新たに進出した韓国において、家庭市場の開拓が順調に推移しました。台湾においては前期に導入した役務提供サービスとの相乗効果が始まる等、その他の既存展開地域においても市場拡大に向けた各種施策の実行に注力しました。ミスタードーナツ事業は、8月で進出から1年を迎えたマレーシアの売上は概ね順調に増加し、タイ及び上海も新規出店を進め好調に推移しましたが、その他の地域の売上が減少し、ミスタードーナツ事業全体としては、ほぼ前年同期並みの売上高となりました。

以上の結果、その他の売上高は、76億29百万円（前年同期比0.7%増）、営業利益は、2億84百万円（前年同期比0.8%減）となりました。

なお、上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、6億26百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(4) 主要な設備

前連結会計年度末において計画中であった主要な設備の新設等について、当第3四半期連結累計期間に著しい変更があったものは、次のとおりであります。

提出会社

事業所名	所在地	セグメントの名称	設備の内容	投資予定金額(百万円)		資金調達方法	着手及び完了予定年月		完成後の増加能力
				総額	既支払額		着手	完了	
生産本部	大阪府吹田市	クリーンケアグループ	生産総合工場システム再構築	2,379	99	自己資金	平成24年3月	平成27年3月	(注)1

- (注) 1. 販売又は生産能力に重要な影響はありません。
2. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	200,000,000
計	200,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在 発行数(株) (平成24年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成25年2月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	66,294,823	66,294,823	東京証券取引所 大阪証券取引所 (各市場第一部)	単元株式数 100株
計	66,294,823	66,294,823		

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成24年10月1日～ 平成24年12月31日		66,294,823		11,352		1,090

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成24年9月30日）に基づく株主名簿による記載を行っております。

【発行済株式】

平成24年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 2,009,600		
完全議決権株式(その他)	普通株式 64,204,800	642,048	
単元未満株式	普通株式 80,423		
発行済株式総数	66,294,823		
総株主の議決権		642,048	

【自己株式等】

平成24年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数(株)	他人名義 所有株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ダスキン	大阪府吹田市豊津 町1番33号	2,009,600		2,009,600	3.03
計		2,009,600		2,009,600	3.03

(注)平成24年12月31日現在で保有している自己株式は、2,309,834株(発行済株式総数の3.48%)であります。

2【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間において、役員の異動はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成24年10月1日から平成24年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	15,600	18,058
受取手形及び売掛金	10,891	12,648
リース投資資産	1,850	1,830
有価証券	18,153	17,067
商品及び製品	6,345	6,035
仕掛品	195	159
原材料及び貯蔵品	1,456	1,980
繰延税金資産	2,306	1,647
その他	2,675	3,021
貸倒引当金	72	39
流動資産合計	59,401	62,411
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	41,283	41,898
減価償却累計額	23,361	24,094
建物及び構築物(純額)	17,922	17,804
機械装置及び運搬具	21,742	23,435
減価償却累計額	15,507	17,083
機械装置及び運搬具(純額)	6,235	6,352
土地	23,818	24,232
建設仮勘定	268	305
その他	11,881	13,695
減価償却累計額	8,317	9,096
その他(純額)	3,563	4,598
有形固定資産合計	51,809	53,291
無形固定資産		
のれん	200	690
その他	8,926	8,005
無形固定資産合計	9,126	8,696
投資その他の資産		
投資有価証券	60,816	57,590
長期貸付金	45	132
繰延税金資産	6,998	6,171
差入保証金	7,876	7,580
その他	1,454	1,452
貸倒引当金	212	193
投資その他の資産合計	76,979	72,733
固定資産合計	137,915	134,721
資産合計	197,316	197,132

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	6,616	7,335
1年内返済予定の長期借入金	94	99
未払法人税等	1,902	778
賞与引当金	3,422	1,820
ポイント引当金	449	405
資産除去債務	253	2
未払金	6,669	5,741
レンタル品預り保証金	10,634	11,177
その他	4,281	3,838
流動負債合計	34,323	31,201
固定負債		
長期借入金	151	113
退職給付引当金	11,965	12,949
債務保証損失引当金	60	24
資産除去債務	355	581
長期預り保証金	791	780
長期未払金	62	37
その他	2	2
固定負債合計	13,388	14,489
負債合計	47,711	45,690
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,352	11,352
資本剰余金	11,337	11,337
利益剰余金	131,591	133,153
自己株式	3,176	3,632
株主資本合計	151,104	152,211
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,793	1,136
繰延ヘッジ損益	3	6
為替換算調整勘定	533	509
その他の包括利益累計額合計	2,323	1,638
少数株主持分	823	869
純資産合計	149,604	151,442
負債純資産合計	197,316	197,132

(2) 【 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 】

【 四半期連結損益計算書 】

【 第 3 四半期連結累計期間 】

(単位 : 百万円)

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成23年12月31日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年12月31日)
売上高	130,634	126,866
売上原価	73,530	72,069
売上総利益	57,104	54,796
販売費及び一般管理費	49,274	46,900
営業利益	7,830	7,896
営業外収益		
受取利息	675	698
受取配当金	222	201
設備賃貸料	97	90
受取手数料	211	218
負ののれん償却額	17	-
持分法による投資利益	17	-
営業権譲渡益	72	131
雑収入	458	366
営業外収益合計	1,772	1,707
営業外費用		
支払利息	4	3
為替差損	81	40
持分法による投資損失	-	64
支払補償費	26	65
賃貸借契約解約損	86	33
雑損失	129	87
営業外費用合計	328	294
経常利益	9,274	9,309
特別利益		
固定資産売却益	0	0
投資有価証券売却及び償還益	130	939
負ののれん発生益	0	-
貸倒引当金戻入額	24	-
その他	9	97
特別利益合計	164	1,037
特別損失		
固定資産売却損	32	3
固定資産廃棄損	127	118
減損損失	71	67
投資有価証券評価損	1,079	706
災害による損失	284	-
その他	25	17
特別損失合計	1,621	912
税金等調整前四半期純利益	7,817	9,433
法人税等	4,698	3,962
少数株主損益調整前四半期純利益	3,119	5,470
少数株主利益	49	51
四半期純利益	3,069	5,419

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	3,119	5,470
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	53	657
繰延ヘッジ損益	5	2
為替換算調整勘定	56	22
持分法適用会社に対する持分相当額	48	10
その他の包括利益合計	164	694
四半期包括利益	2,955	6,165
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,928	6,104
少数株主に係る四半期包括利益	26	60

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

連結の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間より、蜂屋乳業株式会社の全株式を取得したため、連結の範囲に含めております。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

(税金費用の計算)

連結子会社の税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

偶発債務

連結会社以外の会社の金融機関からの借入に対して、債務保証又は経営指導念書の差入れを行っております。

(債務保証)

前連結会計年度 (平成24年3月31日)		当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)	
ミスタードーナツ加盟店 (事業者融資保証)		ミスタードーナツ加盟店 (事業者融資保証)	
(株)フジタコーポレーション	53百万円	(株)フジタコーポレーション	29百万円
(株)サン・ウッド	30	(株)安住商会	26
(株)安住商会	30	(株)松屋	25
その他	38件 180	その他	26件 79
協力工場		協力工場	
(協栄工場融資保証)		(協栄工場融資保証)	
(株)山陰ダスキン工場	72	(株)アイエムコーポレーション	64
(株)アズミ	27	(株)アズミ	23
太洋ドライクリーニング(株)	8	太洋ドライクリーニング(株)	5
(株)北越ダスキン協栄工場	7	(株)北越ダスキン協栄工場	4
当社従業員 (厚生貸付保証)		当社従業員 (厚生貸付保証)	
	76件 88		66件 71
合計	499	合計	330

(経営指導念書)

前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
-	統一多拿滋(上海)食品有限公司 19百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)、のれんの償却額及び負ののれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
減価償却費	4,660百万円	5,318百万円
のれんの償却額	99	141
負ののれんの償却額	17	-

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月23日 定時株主総会	普通株式	2,612	40	平成23年3月31日	平成23年6月24日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月22日 定時株主総会	普通株式	2,571	40	平成24年3月31日	平成24年6月25日	利益剰余金
平成24年10月31日 取締役会	普通株式	1,285	20	平成24年9月30日	平成24年12月3日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	クリーン グループ	フード グループ	その他 (注1)	計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高						
外部顧客への売上高	86,889	36,168	7,577	130,634		130,634
セグメント間の内部売上高 又は振替高	651	4	1,800	2,455	2,455	
計	87,541	36,172	9,377	133,090	2,455	130,634
セグメント利益	10,950	1,840	286	13,076	5,246	7,830

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、病院のマネジメントサービス、事務用機器及び車両のリース、保険代理業及び海外事業等を含んでおります。
2. セグメント利益の調整額 5,246百万円には、セグメント間取引消去 20百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用 5,226百万円が含まれております。
3. セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

当第3四半期連結累計期間において、のれんの金額に重要な影響を及ぼす事象はありません。

なお、のれんの当第3四半期連結累計期間の償却額及び当第3四半期連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

(単位:百万円)

	クリーン グループ	フード グループ	その他	全社・消去	合計
当第3四半期連結累計期間償却額	96	2	0		99
当第3四半期連結会計期間末残高(注)	236	0	-		236

- (注) 当第3四半期連結会計期間末残高の主な内容は、平成20年7月に取得した株式会社アミ・コーポレーション(現在は株式会社ダスキンサーヴ東北と統合)ののれん残高93百万円(クリーングループ)と当社及び連結子会社が複数の加盟店から事業譲受した際に発生したのれん残高103百万円(クリーングループ)等であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間（自平成24年4月1日至平成24年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	クリーンケア グループ	フード グループ	その他 (注1)	計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高						
外部顧客への売上高	83,954	35,282	7,629	126,866		126,866
セグメント間の内部売上高 又は振替高	720	10	1,874	2,604	2,604	
計	84,674	35,293	9,503	129,471	2,604	126,866
セグメント利益	11,413	1,143	284	12,841	4,945	7,896

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、病院のマネジメントサービス、事務用機器及び車両のリース、保険代理業及び海外事業等を含んでおります。
2. セグメント利益の調整額 4,945百万円には、セグメント間取引消去 8百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用 4,936百万円が含まれております。
3. セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
4. 第1四半期連結会計期間より、従来の「クリーングループ」について「クリーンケアグループ」へ名称変更いたしました。
- なお、当該変更は、名称変更のみであり、事業区分の方法に変更はありません。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「フードグループ」セグメントにおいて、平成24年5月に蜂屋乳業株式会社を子会社化したことに伴い、当第3四半期連結累計期間では404百万円のものれんが発生しております。

なお、のれんの当第3四半期連結累計期間の償却額及び当第3四半期連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

（単位：百万円）

	クリーンケア グループ	フード グループ	その他	全社・消去	合計
当第3四半期連結累計期間償却額	101	40	-		141
当第3四半期連結会計期間末残高(注)	326	364	-		690

- (注) 当第3四半期連結会計期間末残高の主な内容は、平成24年5月に取得した蜂屋乳業株式会社ののれん残高364百万円（フードグループ）、当社及び連結子会社が複数の加盟店から事業譲受した際に発生したのれん残高270百万円（クリーンケアグループ）及び平成20年7月に取得した株式会社アミ・コーポレーション（現在は株式会社ダスキンサーヴ東北と統合）ののれん残高31百万円（クリーンケアグループ）等であります。

(重要な負のものれん発生益)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	47円56銭	84円38銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	3,069	5,419
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	3,069	5,419
普通株式の期中平均株式数(千株)	64,550	64,225

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成24年10月31日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 配当金の総額.....1,285百万円

(ロ) 1株当たりの金額.....20円

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....平成24年12月3日

(注) 平成24年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行っております。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年2月13日

株式会社ダスキン
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 石橋 正紀

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 伊藤 嘉章

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ダスキンの平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成24年10月1日から平成24年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ダスキン及び連結子会社の平成24年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。